

10月1日 飛び出せ高校生！Part2

9月21日付けレポートの続きです。

鶴岡市(旧藤島町)鷺畑地区は、平成19年度から経営体育成基盤整備(ほ場整備)事業を実施しています。これと並行して、専門家、事業関係者等が参加する「環境情報協議会」を立ち上げ、地区の生態系保全の検討を重ねてきました。

「環境問題は世代を引き継ぐ問題である」と言われます。鷺畑地区環境情報協議会では、次世代を担う若者の感性と行動力に期待し、県立庄内農業高校水質調査研究班と一緒に、生態系保全池のプランニングを行っています。保全対象種は、環境省レッドリストで絶滅危惧B類に指定されている「ホトケドジョウ」です。



(現在の保全池)



(現地調査の様子)



(発表の様子)

10月1日の第6回環境情報協議会では、現地視察と活動報告を行ないました。この席で、庄内農業高生が生態系保全池のデザインを提案し、これに対して、専門家から様々なアドバイスを受けました。今後は、より機能的な保全池に向けて検討を重ね、地域住民参加の直営施工という手法を用いた保全池づくりが始まります。

茨城県にて

霞ヶ浦

9月27日から10月8日まで、茨城県つくば市の農村工学研究所が実施する技術研修を受講してきました。

国、県、土地連等の担当職員が、農村環境(生態系に配慮した事業の進め方や、地域住民参画による活動事例等)に関する事を学びました。

その間、休みを利用して「霞ヶ浦」に行きましたが、その大きさに驚きました。



ウィンドサーフィンや釣りをしている人がたくさんいました。

新米です

10月1日 因幡堰土地改良区の稲刈り体験がありました

”つや姫”誕生の地である鶴岡市の旧藤島町で、稲刈り体験が開催されました。農業や農業用水の大切さを知ってもらうために、因幡堰(いなほせぎ)土地改良区が呼びかけで行なわれた。

春に手植えた田んぼで、一般公募、関係者約70人が手に手に鎌を持ち、最初は恐るおそる刈っていた”新米農家”の方々も次第に慣れてきて、予定よりも早く作業を終えることができました。



(だんだん楽しくなってきた)



(杭掛けで天日干し)



(がんばったよ！)



(おにぎり、いただきます！)

作業の後は、土地改良区の室内に移動して、ミニゲームやクイズで楽しんだり、”つや姫”おにぎりと芋煮を存分に味わいました。

刈り取った米は、後日、参加者に特価で販売してくれるとのことで、今から新米が楽しみです。

来年の参加を希望される方は、「因幡堰土地改良区」まで御連絡をお願いします。

冬支度

大鳥池(旧朝日村)の水門閉鎖作業

伝説の"タキタロウ"が棲むと言われている、大鳥池。
ここは雪深い所なので、雪解けが遅く、春に溜め始めても、貯水量確保が難しくなります。
そのため雪が降るこの時期に池の水門を閉めるのです。
併せて、雪で壊れないように手摺の格納もおこないます。



今年は何の位雪が積もるんだろう…？

秋の暮坪の風景

やまがたの棚田20選 暮坪

山形の棚田20選に選ばれている鶴岡市暮坪(旧温海町)があります。
10月12日の風景。稲刈が終わり、稲を杭掛けし乾燥しているところ。
海岸を通る国道7号線から1.4kmの地点に展望台があり、棚田と海が見えます。



ぜひ一度、足をお運びください。

釣り好きの方は行ったこともあるかと思いますが、上り口付近の海岸は磯釣りがあちらこちらで見受けられます。
両方堪能できますよ。
ちなみに釣り堀もあるので道具なしでも釣りを楽しめます。



しな織り祭り

鶴岡市(旧温海町)のしな織り祭り

鶴岡市関川に於いて、毎年開催されている「しな織り祭り」に行ってきました。
前日まで降っていた雨の心配をよそに、大勢のお客さんが「しな織り」の商品を購入したり、織りを見学したり、
地元の農産物を買求めたりしてにぎわっていました。



日本最古の織物の一つと言われる、古代布「羽越しな布」は国の伝統的工芸品に指定されています。
伐採から製品化まで全て手作業で行われます。
皆さんぜひ実物を手にとってみてください。



秋の風物詩1(母川回帰)

鮭の遡上

遊佐町では、3つの鮭漁業生産組合がありますが、ここ滝淵川にも例年どおり鮭が遡上しています。

高瀬川から遡上すると途中で滝淵川、そして牛渡川との合流点がありますが、それぞれ川の匂い(味?)が違うんでしょうね。

違いの分かる鮭が自分の故郷を求めてひたすら泳ぐ姿に感傷的になる私です。



母なる川



鮭の姿が見えますか

寒っ！

寒い日が続きますね…

昨日から気温が下がり、今朝は一段と布団が愛おしく感じられました。

窓から見える鳥海山は中腹くらいまで白くなっています。

(雲で頂上は見えませんが…)

この寒さは、りんごにとっては甘味を増す大切なもののようです。

今から、山形のおいしいりんごが楽しみです。

(そういえば、私の頬もりんごのように丸いのですが…関係ないか)

皆さん風邪には気を付けましょう！！

キノコ祭り

農村環境保全指導員(旧朝日村)の活動

鶴岡市(旧朝日村)農村環境保全指導員の方の活動の一つとして、大鳥タキタロウ村「キノコ祭り」が開催されました。

開会セレモニーとしてハーモニカ演奏に合わせた参加者全員による「ふるさと」と「もみじ」の斉唱の後、トレッキングを兼ねた栗拾いとカブの収穫が行われました。



< 大鳥自然の家 >



< 栗拾いへ >



< 栗拾いの様子 >



< カブ収穫の様子 >

鶴岡市、酒田市の他、新潟県からも参加があり、自然の素晴らしさを知るこのような「地域活動」はとて貴重ですね！

冬の訪れ

もう冬？！

「暑～い。体が融ける～」などと叫んでいたら、いつのまにか「寒～い！凍える～。もう冬？」と思っているのは私だけ・・・？

そんなことで、今回は庄内の冬の風物詩を三つ。

1 鳥海山の冠雪



夫婦で見ろ！
いきなりすみません。
私が鳥海山の標高を覚えた語呂合わせです。
フープでミロ
2 2 36 m
今イチ・・・？

2 落穂拾い



毎年10,000羽近くの白鳥が最上川河口に飛来します。
日本一です。
白鳥たちは、朝から夕方まで最上川河口のわぐらを離れ、
落穂拾いに動きます。
白鳥が集まるのは、やっぱり「つや姫」の田んぼかな・・・？

3 鶴岡公園の「こも巻き」



松のヒートテック腹巻ではありません。
害虫マツケムシをわらでできた「こも」で越冬させ、
春先に「こも」共々焼却するという害虫駆除法なのだそうです。

4 整いました！！

「今年の冬」と掛けまして
「嵐のコンサートチケット」と解きます
心は「どちらも秋(空)がない」
れいこっちはです！

七五三掛の近況

現在の様子です。

平成21年春、鶴岡市七五三掛地区では大規模な地すべりにより大きな被害を受けました。現在は、農林水産省直轄事業により地すべり防止工事が行われています。平成23年の営農再開に向けて、水田の整備がほぼ終了し、水路の据付等が進められています。被害が小さかった畑では、集落外から通いで野菜の管理を行っている人を見かけました。白菜が大きくなっていて、冬が近づいていることを感じます。



干し柿作りしたことあるかな？

柿むきと縄ない

10月30日に郡境・山谷コミュニティ振興会が地域行事の一つとして、子供達と干し柿作りを行いました。

縄ないは「わら工房」の方が縄作りの指導を行い、縄も作成。柿をむいて縄にくくりつけて完成！

子供達、お母さん達も、初めての縄ない、なかなかうまく出来ました。子供達の包丁は見ていて怖いものがありますが、皆最初は一緒だったはず。お正月頃に出来上がるのを楽しみにしています♪



水田畑地化を進めよう

水田を畑として利用

山形県の耕地面積12万ヘクタールのうち、8割の9万5千ヘクタールが水田です。この中で、3割の3万ヘクタールが生産調整水田(いわゆる転作田)になっています。県ではこの生産調整水田を対象に、平成13年度から22年度までの10ヵ年で3割の1万ヘクタールの水田畑地化計画をたて、うち6割の6千ヘクタールを県事業として支援してきました。

水田の畑地利用は、地下水位が高くそのままでは大豆や野菜等の栽培に適しません。そこで県事業では、密度の濃い暗渠排水を施して地下水位を調整したり、専用機材導入を支援することで畑地に最適な環境づくりを行ってきました。

平成23年度からは5ヵ年計画で、更に2千ヘクタール(うち県事業1千ヘクタール)を目標に水田畑地化に取り組む予定です。

県民1人当たりの耕地面積は10アール、水田は8アール、水田畑地化は1アールです。覚えやすい数字ですね。

<平成23年度水田畑地化予定箇所を地権者と現地踏査している状況>



収穫感謝祭

11月21日 因幡堰土地改良区の収穫感謝祭がありました。

この日は、本ホームページで紹介されている”10月1日 新米です”で収穫されたお米の即売会や農業用施設の見学、農業用水を利用した消防ポンプによる放水体験などが行われました。

通常一般の人は入れない農業用水の取入口を見学したり、子供達の放水体験、消防車・救急車内の見学、その他、農業体験や環境活動に積極的に参加した子供達に「いなば子供未来クリエイター」の資格認定証が送られました。

来年参加したい方は『因幡堰土地改良区』までご連絡をお願いします。
ご家族で参加してみたいはいかがでしょうか？



<越中堰頭首工 農業用水取入口です>



<放水体験♪>



<救急車内の見学です>



<救急車内にて★>



<クイズ大会の様子>



<「いなば子供未来クリエイター」に認定>

風に備えて

これで冬の寒さも大丈夫

暖かさに誘われ、晴天の土曜日に北のほうに出かけました。
「おくりびと」の撮影が行なわれた月光川(がっこうがわ)の土手に近い集落で
冬の身支度をしてお地藏さんを見かけました。

庄内地域では、強烈な地吹雪に見舞われることが何日かあるので、近くの方が準備してくれたのでしょう。
住民のお地藏さんに対する思いやりが感じられます。

こんな暖かな心遣い、ちょっとした地域の活動が続くことで、地域の元気も
保たれていくんでしょうね。



クリスマスリースと正月飾り

農村環境保全指導員酒田市(旧松山町)の活動

師走になり、慌ただしく時が駆けていくように感じるようになりました。

クリスマスと正月を彩る「クリスマスリース」と「正月飾り」の制作が酒田市松山の内郷で行われました。

農村環境保全指導員の佐藤さんと“うさぎの尾っぽグループ”が丁寧に指導され、それぞれ納得のいく作品ができたようです。

飾りに使った材料のほとんどが地元で採れたものということで、参加者の方々も「これは何?」、「へえ〜」と関心を持たれたようです。



農業水利施設ストックマネジメント

農業水利施設の機能保全

12月8日に農業水利施設ストックマネジメント研修会を開催しました。
山形県の農業用の水路延長は1,903kmあり、全国では41,795kmでとても長いです。
川や池から集落に水を運んでくれるのも農業用がほとんどです。



鉄筋探知機調査:コンクリートのかぶり厚と鉄筋の配置を調査



コンクリート中性化試験:フェノールフタレイン液でアルカリ性を示すまでドリルで削孔
かぶり厚の測定によりコンクリートの中性化が表面から鉄筋にまで達しているか確認できる。
コンクリートが中性化すると中の鉄筋が錆びる原因になり、水路等本体の強度不足が生じる。

農業水利施設の相当数は昭和40年代、50年代に集中的に整備されてきた。

順次、老朽化が進行し、更新時期を迎える施設が増加してきている。

これら既存施設の長寿命化を図り、ライフサイクルコストを低減するため、計画的に効率的な更新整備や
保全管理を行う。

【日常・定期管理を行い→機能の調査→保全計画の作成→更新や補修等の対策工事→また管理に戻る】

菅首相来県

庄内の大区画ほ場等を視察

12日(日)に菅首相が庄内に来られ、
農業生産法人や
「辻興屋横堰地区」(鶴岡市)、「東郷堰地区」(三川町)のほ場
を視察されました。



辻興屋横堰地区の1.8haほ場(300m×60m)を視察

※ 「農地集積と大規模農家育成の重要性を認識した。」

とのコメントがありました。

おまけ……

写真は説明者として首相の近くにいた上司が撮ったのですが、
上司曰く、

「写真撮ろうとしたば、SPが鋭い目で睨むのよのお、おっかねっけえ〜。」

「ツーショットしてがったども、無理だっけのお〜。」

当たり前です。

モミタス実演会

モミガラ補填用の機械です。

暗渠排水の疎水材であるモミガラを補填する機械の実演を行いました。
モミタスは、宮城県古川農業試験場で開発し、普及のために特許をとらず情報を公開しているものです。

経年変化によるモミガラの劣化は全県的な問題であることから、県の子算をとり製作し、県内農業関係者を集めて実演したものです。



安産のお守り

トンネル工事現場に行けませんでした！

上野新田3期地区(鶴岡市羽黒)。用水トンネルの改修工事です。



冷たい上司は現場へ連れて行ってくれませんでした…。

実は、ご存知の方も多いと思いますが、トンネルの現場へ女が入ることはとても嫌がられます。これは、山の神様いわゆる「山の神」が女性でやきもちを妬き、落盤等の事故が起きるからだそうです。今でもこういった迷信が信じられています。

「家のかみさんがねえ〜」の「かみさん」も山の神からきてるみたいです。

連れて行かなかったお詫ひか、安産のお守りといってトンネルの石を持ってきてくれました。トンネルが貫通した時に生じる岩石(貫通石)は安産のお守りになるという、やっぱり迷信なのだそうです。やさしい上司…

って言うか、その前に彼氏たろ！

ホームページリニューアル

【ごあいさつ】

おかげさまで「N. N. REIKO」も35回目になりました。
トップページに目次が長々と表示されてしまうため、おもいきってリニューアルしてみました。バックナンバーもご覧ください。
県庁サイト、いろいろ技術的な制約はあるものの、ここまで出来ました。いかがでしょうか？

「情報」には時系列的に、未来情報、現在情報、過去情報があります。
とかく過ぎ去ってしまった過去情報はおろそかにされがちですが、これが整理され蓄積されるとそれは「資源(アーカイブス)」になります。

これからもこの「N. N. REIKO」を通じて、たくさんの『旬』な情報をお届けします。また、私たちのアーカイブスになることを目指します。
今後とも、「N. N. REIKO」をご愛顧いただきますよう、よろしくお願いいたします。

新年祈禱

羽黒山山伏による祈禱

1月6日、本課に於いて1年の無事を願い、新年の祈禱が行われました。



2011年卯年、皆にとってステキな1年となりますように…。

寒鱈祭り

日本海の味覚

1月16日、鶴岡市銀座通りに於いて「日本海寒鱈祭り」が行われました。

鶴岡市内のたくさんのお店が、寒鱈汁や、生寿司、生鮮食品からお菓子までたくさんの品を数多く販売していました。

屋前から多くの人でにぎわっていて、温かい湯気とおいしそうな匂いが食欲をそそりました。

いろいろ見ているうちに食べたくなったり、買いたくなったりしましたが、さすがにちょっと？おさえました…(笑)



雪にも負けず

そり遊び♪

雪かきで出来た山を利用して子供がそり遊びをしていました。

雪の中を転げ回る元気な子供達に『若いなあ〜』という言葉が思わず口に出てしまいます。

(私もほんの数年前までは??こうだったのに…)

今年は例年よりも雪が多い気がしますが、酒田市では過去に1mぐらい降った年もあったようなので、厳しい冬とも言えないのでしょうか。

農家の皆さん、受験生の皆さん、雪にも負けず、風邪にも負けぬよう十分な栄養摂取と休養に心がけましょう。



メダカの学習会

ほ場整備を行った家根合地区の取組を紹介します。

庄内町の家根合地区では、田んぼの整備をする際、小学生の提案で絶滅危惧種のメダカがいなくなるようなメダカの保全活動を行うことになりました。

平成15年から工事で造った保全池等を管理したり、子供達に環境保全の大切さを知ってもらうため、地元でNPOを立ち上げて、小学生と地元が一体となって、いろいろな活動を継続して行っています。

1月20日(木)庄内町立余目第一小学校にて、メダカの学習会を行いました。

4年生を対象に身近にすんでいるメダカや魚たちの名前の由来、見分け方について学習しました。児童からもいろいろな質問があり、魚に対する関心がより一層高まったようです。



名前の由来《諸説あり》

- コイ(鯉)
 - ・恋(コヒ)から鯉(コイ) 景行天皇が美濃(岐阜)に行幸したとき、美女を見そめて求婚したが、彼女が恥じて隠れてしまったため、天皇は池に鯉を放って、彼女が見に来るのを待った。
 - ・体が肥えている、味がこえている(うまい)から
 - ・鯉(コイ)は河魚の長、鯛(タイ)は海魚の長で、鯉と鯛は対で、小位(こい)、大位(たい)など
- モロコ(諸子)
 - ・もろもろ (子の多い魚)
- タモロコ(田諸子・太諸子)
 - ・田に多くいるモロコ
 - ・モロコより太っている

食欲の冬、スポーツの冬？

庄内農林水産加工品フェア

鶴岡市藤島にある農協で、農家自らが農産物を加工して販売する「庄内農林水産加工品フェア」が開催されました。

定番の漬け物やジャム、ジュース、お餅、せんべい、米粉を使ったお菓子など品揃えが豊富で、中には既に完売の商品もあり、人気の高さが伺われました。

試食して、農家の人と産地や農産物の話をしているうちに、アレもコレも買っていました。

食欲の秋から食欲の冬へ…庄内のおいしいものを堪能して、食べた分は運動も頑張ります。



高嶺ルビー

そば打ち&試食in遊佐中学校

■ 赤いルビー食べました

1月29日(土)に、遊佐中学校でそば打ちと試食会が行われました。
月光川土地改良区の21世紀創造運動の一つとして、
遊佐中学校との協賛で実施されたものです。

8月20日の猛暑の中、遊佐中学校1年3組の皆さん、先生、
PTAの方、土地改良区職員で”高嶺ルビー”を播種。
10月22日に除草、11月12日収穫。
そして1月29日、待ちに待った試食会です。

そば打ちの先生は、地元のそば打ち名人(自称?)です。
自分で種を撒いて、自分でそばを打つ。
そばの風味に生徒の努力と感動も加わって最高の味です!



まずは先生のお手本



耳たぶの硬さって…?



均等に薄く、薄く



太さがバラバラなのは愛嬌



冷たい水でさらにおしく!



プロ並み?!



いただきま〜す。んめ〜のお〜

■ 高嶺ルビー

- ☆ 日本ではじめての赤い花を咲かせるそばです。
- ☆ ネパールの標高3,900mという高地に咲いていたそばが原種です。
- ☆ 風味がやや強く、コシが強いのが特徴です。

～タカノ株式会社HPより～



綺麗な赤い花を咲かせます



赤いルビーのじゅうたんです

■ 山形のそば

- ▼ 長野県出身の方がおっしゃっていました。
「長野のそばはうまいけど、まずい店もある。山形のそばはどこで食べてもおいしい。」
- ▼ 山形では、ユニークなそばを味わうことができます。
・板そば ・冷たい肉そば ・月山山菜そば ・ゲソ天そば 等々
～何を食べてもおいしい～

▼ おまけ

山形県民は一人当たりのラーメン消費量が日本一です。
実はラーメンもおいしいんです。

七五三掛地区の近況

現在の様子

ネタ切れの時の七五三掛というわけではありませんが、近況を報告します。
正月明けから毎日降り続いていた雪がようやく止み、青空も見えるような天気になりました。
七五三掛地区は2mをはるかに越える積雪で、道路の除雪をした部分では背丈の倍くらいあります。
この大雪のなかでも地すべりの移動量を観測していますが、観測を継続するために、計測機器が雪に埋もれないよう維持するには大変な労力が必要です。
それ以上に、この地で暮らす方々の苦労は大変なものです。



【GPS基準点】



【GPS観測点】



【工事用道路】



【「おくりひと」ロケ地の雪下ろし】

先輩からの投稿

こんな話がありました。

今回は先輩からの投稿をご紹介します。

『農閑期に入ってから「地域でほ場整備の学習会をしたいので説明に来て欲しい」という話が数件あって、何度か学習会に参加し、意見交換の機会を持ちました。それを生業としているので、地域から直接声がかかるのはうれしいことです。

とはいっても、事業化まで持っていくには長い時間と粘り強い対応が必要です。その中からある地区の事例を紹介します。

仮にA地区とします。水田面積80ha、水田の区画はほとんどが1a未満で、農家戸数54戸のうち約半数は委託に出しています。受託農家に聞くと、耕作地が点在しているため1人で6ha(つまりは100枚ぐらい)の耕作が限界ということでした。

委託側は、今後農業をやる意思はなく、よってお金をかけてまでほ場整備する必要性を感じていません。それで受託している人が誰もいなくなるのであれば、遊休放棄地になってもやむを得ない、という意見が残念ながら多いです。

一方で受託側は、ほ場整備をしなければ将来的に農地を守っていくことはできないことは理解していますが、後継者がいないことや、TPPへの不安、米価が下がり続けている中で新たな投資に踏み切れません。

加えて、大半の農家は目の前の生活のことで精一杯で、とても将来を見据えた対策や地域全体のことを考える余裕がありません。仮に考えても結論が出ない、出せない、と思い込んでしまっています。

ほ場整備の目的は「強い経営体を作る」ことにあります。そのために、区画を大きくし、組織づくりをして面的集積を図り、米以外の産地づくりを図ります。説明会でこういう話をさせていただくと、総論としては誰もが理解し賛同してくれますが、各論になると、上段のような事情により思考が止まってしまいます。

大きなジレンマはありますが、地域が「思考停止」に陥ることはなんとしても避けたいと思います。すぐに結論は出ないまでも、地域の課題解決に向けて「考え続ける」ことへのサポートは今後とも継続していきたいと考えています。継続していく限り、必ず解決策は見つかるはずです。』

【～N. N. REIKOの感想～】

このように悩んでいることがあれば、ぜひご相談していただきたいと思います。1人より2人、2人より3人…誰かに相談することによっていろいろな人の意見を聞くことができ、何らかのヒントを得る可能性が増えます。ネットワークが大事だと思います。何もしないよりも、一緒になって話し合いをしていきましょう。皆で頑張りましょう！

指導員の研修会

庄内ブロック 農村環境保全指導員研修会

参加者に指導員の地域活動を知ってもらおうと共に、関係者のネットワークの拡大を目的としてこの研修会を開催しました。環境保全活動に取り組まれている鶴岡市の太田氏と庄内町の佐藤氏を講師に迎え、「庄内の湧き水と土」、「メダカの里・豊かな環境を次世代へ〜小学生とのふれあいから〜」と題し、お話をさせていただきました。



太田氏からは、年々川の水が減っていき、水質も悪くなっていることから、最終的には海まで影響してくるので、それを改善するためにはおおもとのブナ林の復元が大切だというお話をさせていただきました。

佐藤氏からは、ほ場整備をきっかけに小学生と一緒にメダカなどの保全に取り組んでいる活動を紹介させていただきました。

その後、講師の方をアドバイザーとして、指導員、市町担当で意見交換を行い、日頃思っていることや課題などについて話をさせていただきました。

地域活動のポイントとしては、ネットワークを広げること、地域に一つでも他に負けないモノがあれば、それを工夫してつなげていくことで活性化のチャンスは広がっていくのではないかとような意見が出されました。



ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。
今後も指導員の方の活動に少しでもお役に立てるよう、活動への参加や、広報活動を進めていきたいと思っております。
市町担当の皆様、今後ともご協力よろしくお願いたします。

七五三掛大吉桜穂木採取作業

大きくなってね。

平成21年2月25日に地すべりによる亀裂が発見されてから2年になります。先祖伝来の土地を花で飾り、地域の復興を祈念するために、住宅等撤去跡地に桜を100本植樹する計画です。これに向けて、地元住民、関係機関が参集し、「大吉桜」と呼ばれている地すべりでも被害がなかったしだれ桜から穂木を採取しました。穂木から苗木を育成し、植樹は平成24年の予定です。



積雪のため、脚立なしで作業可能



参加者

お雛様です

地元の方が参加している取組の紹介

3月7日、鶴岡市立西郷小学校にお邪魔して、打ち合わせを行いました。
その時、玄関に飾ってあったお雛様を撮影させていただきました。

何の打ち合わせかというと、県のほ場整備事業で田んぼや水路にいる生き物がいなくなってしまうため、それに代わる施設として、生き物を保全する池を造ることになりました。

その際、小学生の意見や地元の意見を反映させたものにしようということで、小学生にイメージ図を書いてもらったり、右下の写真のようにワークショップを開催して、そこに住んでいる人達の考えを取り入れた設計を行っています。



3月10日には設計図のお披露目会として、小学生にできあがった図を見てもらい、意見交換を行います。
どんな意見がでるか楽しみです♪

お披露目会

小学生の意見も大切に

3月8日の続きです。

3月10日、鶴岡市立西郷小学校6年生に完成した池の設計図を見てもらい、意見交換を行いました。ほぼ全員から「自分達の考えが反映されている」という、うれしい話を聞くことができました。

来年度は生き物の引っ越し作業やミズバショウの移植作業を予定しているため、5年生からも参加してもらい、6年生から引継ぎしてもらいました。

県としても継続した取組の協力をお願いしました。



がんばろう 東北！！

■ 被災地の皆様にお見舞い申し上げます

3月11日の東日本大震災で被災された皆様にご心からお見舞い申し上げます。
おかげさまで、ここ庄内は震度5弱だったものの、大きな被害はありませんでした。

山形県も知事を本部長に災害対策本部を立ち上げ、
避難所の開設・運営、避難者の健康相談、救援物資の輸送等、様々な対応を図っております。

近隣県である被災地の1日も早い復興を願って
わたしたちもできる限りの支援・応援をまいります。

被災地の皆さん、大変でしょうが頑張ってください。

がんばろう 東北！！！！